

ふるさと講座・自然系第1回目「シギ・チドリ観察会」のお知らせ！

この時期数多く見られる「シギ・チドリ」を中心とした観察会を行います。ぜひ、ご参加ください。

●日 時 令和6年5月19日（日）
午前9時30分～12時30分

●場 所 野付半島（集合-野付半島ネイチャーセンター2階）

●講 師 NPO法人野付・エコ・ネットワーク
代表 藤井 薫氏

●定 員 10名

（電話にてお名前・電話番号を5月1日（水）から16日（木）までにご連絡ください。）

●その他 長靴を着用ください。図鑑・双眼鏡をお持ちの方は持参ください。
当館でも若干貸出しします。



ふるさと講座・歴史系第1回目 歴史の道を歩く江戸時代のノツケ！ ～野付通行屋・番屋跡遺跡を訪ねる～を実施しました。

4月20日（土）参加者14名で実施しました。

はじめに野付半島ネイチャーセンターで30分ほどレクチャーを行いました。野付通行屋が設置された背景、現地に残る痕跡、古文書資料に描かれたノツケの風景、平成15～17年度に行われた野付通行屋跡遺跡の発掘調査など、野付半島先端部で江戸時代に生活の営みがあったお話をしました。

その後、野付通行屋跡遺跡入口まで車で移動し、そこから約2km歩きました。遺跡では、墓石、建物跡、畑の畝跡などを実際に見学しました。海岸沿いに陶磁器や金属製品などが落ちていたことから、参加者は、江戸時代の様子を思い描いていたようです。



豊原分館開館のお知らせ

開館期間 5月～10月 毎週金曜日、最終日曜日

時 間 午前10時から午後4時



「メナシのアイヌとともに生きる～加賀伝蔵・松浦武四郎・南摩綱紀～」その9 加賀伝蔵、ウイマム(御目見得)のためアイヌとともに函館に行く

ウイマムとは、アイヌ語で交換交易のことで、アイヌの首長が蝦夷地の産物を松前藩主に献上し、その返礼として本州製品と交換することでした。しかし、次第に形式化し、交易の要素を失っていき、幕府が蝦夷地を直轄するようになると、3年から5年に1回の年番制になり、場所内のアイヌが、通辞と共に松前や函館に赴くのが通例となりました。

伝蔵は、1859年(安政6)4月25日に行われるウイマム(御目見得)に根室場所の役アイヌ(仁助・陳平・重助)、付添いアイヌ(重助・作蔵)を連れ、函館に行くよう命じられました。

○根室から函館までの道程(3月1日～4月10日)

函館までの道程は、春先の大雪や大雨のため、先に進めなかったり、徒歩や馬での長旅は決して楽なものではありませんでした。役アイヌの仁助は、途中からはれものの病気になり苦しい道中となりましたが、伝蔵や行く先々の和人の心優しい対応により回復していきました。ウイマム(御目見得)には、根室・厚岸・釧路の三場所のアイヌが参加しました。

○ウイマム(御目見得)(4月25日)

伝蔵は、朝早くに献上品の確認などを済ませウイマム(御目見得)に備えました。係の役人、通辞、アイヌたちは麻の袴を着用しました。

ウイマム(御目見得)は、御奉行衆の挨拶に始まり、根室場所の仁助が三場所のアイヌを代表してお礼の言葉を述べ、献上品を差し出し、御拝料の品を受け取りました。最後に祝宴が開かれ無事にウイマム(御目見得)が終了しました。

○函館滞在中の様子(4月10日～28日)

函館に着いてからは、到着報告を済ませ、ウイマム(御目見得)での献上品についての打合せや稽古などを行いました。

伝蔵は、暇を見てはアイヌたちを街に連れ、南部藩・津軽藩・仙台藩の陣屋、弁天御台場、寺院の参拝、繁華街、人形芝居の見学など多くのことを見聞しました。街を歩いているとアメリカの貿易官が仁助の髭に興味を持ち話しかけてくるなど外国人との交流もありました。

伝蔵は、函館の港も外国へ開かれ、蝦夷地もこれまで以上に人の行き来が多くなり、開拓が進むと考えていたかと思います。メナシ地方は、開拓の速度は遅いかも知れないが、メナシ地方の発展のためには、アイヌに多くのことを見聞させ、ともに発展させて行こうという意図があったかと思われます。

別海町郷土資料館だより No.298

発行日 令和6年5月1日
発行所 別海町郷土資料館
別海町別海宮町 30 番地
電話 0153-75-0802 (FAX 兼)

編集後記

寒暖差が著しい4月でした。ふるさと講座歴史系第1回目の野付半島もあいにくの強風で肌寒かったのですが、遠くは、小樽・札幌・千歳・富良野などから参加者がありました。日本遺産の構成文化財である野付通行屋跡遺跡は、多くの人を魅了するようです。